「アイム」とは立川市女性総合センターの愛称です。

立川市は「男女平等参画基本条例」を制定しています

男女平等を推進する

アイム

No.41
12/10
令和5年（2023年）
年1回発行

主な記事

2～3面　「男らしさ」「女らしさ」って何？／太田啓子さん本の紹介／あるシニア男性の独りごと
4面　立川・この人／令和５年度立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所紹介

発行／立川市男女平等参画課
企画・編集／アイム市民編集委員
（〒190-0012）立川市曙町2-36-2
☎ 042-528-6801　FAX 042-528-6805
e-mail danjobyoudou@city.tachikawa.lg.jp
立川市ホームページ https：//www.city.tachikawa.lg.jp

性別による思い込みや押しつけを感じたことはありますか？

アンコンシャスバイアスって知ってる？

最近は女性のバスやタクシーの運転手、男性の保育士や看護師も珍しくはありません。パパの保育園の送り迎えや子連れのお出掛けも増えました。でも、依然として性別による決めつけや思い込みは少なくないようです。今回は、私たちの心の中に潜む「アンコンシャスバイアス」にスポットを当ててみました。

アンコンシャスバイアスとは…

日本語にすると「無意識の偏見」。差別するつもりはないのに、これまでの体験や思い込みによる価値観がものごとの見方をゆがめ、行動や言動に現れてしまうこと。

今回はアンコンシャスバイアスについて、115人にアンケートで聞いてみました。

Q 毎日の暮らしのなかで感じた性別による思い込みや偏見、モヤモヤは？

子どものイベントや自治会活動では、「男は宴会、女は給仕と子どもの世話」（40代女性）

飲み会などのイベント、なぜか男性と女性の参加費がちがう（20代男性）

家事や育児をする夫を褒める。イクメンは特別扱い？（30代女性）

映画館にレディースDAYがあってラッキー！？（30代女性）

男性用トイレや銭湯の清掃スタッフは女性が多い。逆だったら…？（30代男性）

就職活動で結婚後を意識しているのは圧倒的に女性（20代女性）

お茶出しは女性がやるべきなの？（60・70代女性）

男子が騒いでも「男の子だからね」と…。女子の場合は？（40代女性）

男児はブルー、女児はピンクのベビー服。性別で子どもグッズの色や柄を決めつけないで（30代男性）

男性の残業や出張は当たり前（40代男性）

当時は「夫に家事や育児をさせなかった」ことを誇りにしていたので今の価値観を受け入れるのに抵抗がある（60代女性）

このアンケートについて

実施期間　令和５年９月１日～27日
調査方法　市ホームページ
回答者　115人（女性89人、男性24人、回答しない２人）

インタビューは2面へ

「これからの男の子たちへ」の著者弁護士の太田啓子さんに聞いてみました

「男らしさ」「女らしさ」って何？
無意識の思い込みから自由になるために
～これからの私たちへ～

〝マチ弁〟からみるジェンダー問題

――ご著書の『これからの男の子たちへ』は、韓国や台湾などでも翻訳され、話題になっています。この本を書こうと思われたきっかけからお聞きしたいと思います。

太田　女性弁護士が主役のドラマなどは少なくないですが、実は女性の弁護士は全体の約20％弱。地域の案件を扱う〝マチ弁〟、特に女性弁護士には離婚問題が集中する傾向があります。離婚問題を扱う中で気づいたのは、社会の性差別構造のひずみが夫婦関係に色濃く反映しているということです。

たとえば、家事や育児などの家庭内労働は女性に偏りがちですが、その現状の不公平さ自体が男性には見えづらい。そういうものだと思っていると、そもそも「問題」だと感じられないのでしょうね。普段子育てに関わってこなかったのに離婚後の親権を主張する男性もよくいます。お迎えに間に合う時間に帰宅したこともないのに、離婚後どうやって子育てをできるつもりなのか不思議になりますが、育児に具体的なイメージがない父親ほど親権を主張したりします。離婚事件で目にする様々な問題の背景には、誰もが子どもの頃から大なり小なり社会からジェンダーバイアスを刷り込まれて育っていることがあるからではないか…。私も二人の男の子を育てている母親です。この子たちにジェンダーについて伝えたい。こういった思いがこの本を書くきっかけになりました。

有害な男らしさと男性の生きづらさ

――最近は、男性の生きづらさも話題になっていますね。

太田　著書の中でも紹介していますが、ジェンダーバイアスにとらわれず、積極的に家事や育児に参画したいと考えている男性も特に若い世代には増えていると感じます。しかし、社会の中で男性に課せられる役割はなかなか変わりません。育児休暇制度はあっても、取得したら出世できない暗黙の職場の空気や、夫婦で公平に育休を取りたくても、夫のほうが給与が高いために夫より妻が育休をとるほうが世帯収入全体を考えると「経済的には合理的」になってしまうジレンマもありますね。

ジェンダー差別の解消に向けて、今は過渡期なので、このような葛藤や難しさがあるわけですが、男性たちが、自分が不平等な社会を変える主体になれるという自覚を持てるといいですね。一人だけでできることではないですから、まずは夫婦が対等に話し合える関係をつくったり、同じ悩みをもつ仲間と思いを分かちあうことから始めていけるといいのではないでしょうか。

女性のインフルエンサー（社会に影響力を持つ人）は、仕事で注目されても、同時に家庭との両立にスポットをあてられ、「妻、母」という側面も強調されがちです。でも男性は、「仕事と家庭を両立した」というような語られ方は普通聞かないですね。野球選手のダルビッシュ有選手が、「自分がいないと家庭に負担をかける」と子育てを理由にＷＢＣ（ワールド・ベースボール・クラシック）出場を迷っていたニュースは、世の中の男性たちにどのように響いたでしょうか。

両立困難？ていねいな暮らしとジェンダー平等

――昨年度、立川市では「男女平等参画についての市民アンケート調査」（下記参照）を実施しました。それとは別にわれわれアイム編集委員も独自に「ジェンダーについてのアンケート」を行いました。

太田　拝見しました。市民アンケートからもわかるように教育現場がかなり変わってきているのは、うちの息子たちを見ていても感じます。かつて私は体操服のブルマーが本当に嫌でした。身体測定で上半身裸になることにも違和感がありました。今は性別で分けない男女混合名簿をつくったり、教師が生徒や児童を性別問わず「○○さん」と呼んだり、また女性校長も増え、学校も変わりつつあります。

難しいのは地域活動ですね。性差別的な慣習というのはなかなか困難で厄介です。アイム編集委員のアンケートにも「お祭りや親戚の集まりで男性は酒盛り、女性は配膳係」とか「少年野球で母親は輪番制で弁当係」などのコメントがありましたね。性差別的な慣習をなくすには、空気を読まずあえてその慣習と違う動きをする人が増えることです。多少の勇気はいりますが、そうしないと変わりません。

――家庭内のジェンダーの問題には、どう向き合えばよいのでしょうか。

太田　自分の中にあるジェンダーバイアスを意識し、なるべくなくす努力をしようという意識をパートナーと共有できるといいですね。母親の中にも、自己犠牲を自分で強いてしまうジェンダーバイアスがあったりするんですよね。それを積極的に捨てることを意識することも大事です。私にもあったと思っていて、私は子どもが生まれてからしばらくは、「手作りのていねいな食事を子どもには食べさせたい」という思いが強く、市販の惣菜や冷凍食品はなるべく使いませんでした。手作りの食事作りにこだわっていましたが、仕事も家事も子育ても完璧になどできません。ジェンダー平等先進国のスウェーデンで子育てしている日本人のエッセイを読みましたが、日常的な食事は、日本の一般的な食卓からすると相当簡素なのが普通みたいです。日常的には上手に手を抜いて、ハレの日にはていねいにするとかメリハリをつければいいですよね。

これからの私たちへ

――最後によりよい社会の実現のためにメッセージを。

太田　今、女性団体やセクシュアルマイノリティ（同性愛者や両性愛者、心と体の性が一致しない人など（ＬＧＢＴＱ＋））へのバッシングが強くなっています。歴史的にみても、このような社会構造の変化に対する揺り戻しは繰り返し行われてきました。バッシングとは異なりますが、中高年の方が自分の過ごしてきた時代と今のジェンダー平等をめざす社会を比べて、自分の過去が否定された気分になってしまうこともあるかもしれません。自分が乗り越えてきた壁を下の世代が乗り越えられないのは、甘えだと感じる人もいます。

今の社会に生きる人々は、ジェンダー問題に限らず誰もが生きづらさや抑圧を感じていると思います。大切なのは、その抑圧からの解放をあきらめないこと。我慢し続けるのではなく、そうなる前に周りの誰かに話して、どうしたらいいか考え続けることが必要です。短期的に考えれば、受け身で今の社会に流されていく方が楽ですが、自分が老いていくことや子どもたちの将来を考えるなど長期的な視点に立って考えたときに、自ずと今の行動は変わるはずです。大変だったり、つらかったりした自分を認めることで、はじめて次の一歩が踏み出せるのではないかと思っています。

立川市では、「男女平等参画についての市民アンケート調査」を行いました。詳細については、下のコードを読み取ってください。

太田 啓子（おおた けいこ）さん

弁護士。湘南合同法律事務所所属。日本弁護士連合会両性の平等に関する委員会委員、神奈川県男女共同参画審議会委員などを務める。著書に『憲法カフェへようこそ』（共著、かもがわ出版）、「これでわかった!超訳特定秘密保護法」（共著、岩波書店）など。二児の母でもある。

編集委員が見つけたお役立ち本

イラスト・©マシモユウ

「これからの男の子たちへ ―『男らしさ』から自由になるためのレッスン」

大月書店
太田啓子（著）

男の子だから泣くな？！「有害な男らしさ」や無意識のジェンダー規範によって感情を抑圧し、勘違い男子のまま大人にならないでほしい。家庭や社会で、対等な関係性を築ける「新しい常識」がすべての人に自由をくれます。

「50歳からの性教育」

河出書房新社
村瀬幸浩、髙橋怜奈、宋美玄、太田啓子、松岡宗嗣、斉藤章佳、田嶋陽子（著）

タイトルには50歳とありますが、どんな年代の方にも「今さら聞けない」性の問題が各ジャンルの専門家により丁寧に解説されています。個人的に男性の更年期障害について書かれているのが大変貴重だと思いました。

あるシニア男性の独りごと

“ 親孝行 ”って、なあに?

近頃、「親孝行」という言葉を耳にしなくなった。子どもたちに、「親孝行している？」と聞いても、どういうことか分からずきょとんとしている。

親孝行とは、親を敬い、親につくすことなのだが、どうやら今の子どもには、親孝行は無縁のようで寂しい。

私が小学生のころ、父が事業に失敗して貧乏暮らしをしていたとき、母がタンスの前に座り込み、しばらく考え込んでいたときの様子が目に焼きついて離れない。そのとき母は、タンスの引出しから丁寧に保存されていた着物を取り出し、包みをほどくとしばらくその着物を見つめていた。しばらくして、意を決してその着物を風呂敷にゆっくり包み込んだ。実は、母の実家は庄屋で、嫁入りに豪華な花嫁衣装を用意したようだ。やがて母は、その風呂敷包みを小脇に抱え質屋に向かった。

私は、幼かったので「質屋」の名前を聞いたことはあったが何をするところかは分からなかった。しかし食事の後、長姉から「今日の食事は、お母さんが大事にしていた着物を質屋さんに入れたから食べられるんだよ」と聞かされ、幼心にもありがたいと思った。

一つ上の兄「欽ちゃん」が、コメディアンの道に進んだのは、金持ちになって母親を楽にさせたいと思ったからだ。これが兄の考えた「親孝行」のようだ。

昔の子どもは、誰に言われるのではなく、親の後姿を見て「親孝行」をしたものだが。

（萩）

立川・このひと

立川生まれ・立川育ちの映画監督
立川が舞台の映画も制作

映画監督　**松本（まつもと）動（ゆるぐ）さん**

●映画監督になったきっかけは？

インテリアデザインの専門学校に在学中、アメリカ映画「ストレンジャー・ザン・パラダイス」を映画館で観て、情景を淡々と描く作品に映画の概念を覆され、それ以降、いろいろな映画を観るようになりました。卒業後、イメージフォーラム付属映像研究所を経て、アルバイトをしながら8ミリフィルムで自主映画を撮るなか、気づいたら30歳。一念発起して『死んでもいい』などで知られる石井隆監督に「何でもしますので使ってください」と手紙を書いたところ、自筆のお返事をいただき、助監督の一番下っ端で携わらせてもらうことに。

初仕事は、カチンコもうまく叩けず想像以上にボロボロでしたが、縁がつながり助監督の仕事が始まりました。助監督のサードから、セカンド、チーフと上がっていき、最後は大林宣彦監督の監督補佐を務め上げてから、監督業に専念するため助監督の退任を決意。現在は映画の他、テレビやWEBドラマの仕事も並行しながら、監督一本でやっています。

●「立川名画座通り映画祭」の審査員もしていますね

立川はかつて映画館が10館もあった映画の街。同映画祭は「名画座」のあった柴崎町・諏訪通り商店街の有志が2015（平成27）年に立ち上げ、来年で10回目。私は、第2回に出品（「ガチャガチャ／GACHA GACHA」審査員特別賞受賞）をきっかけに、映画祭のスタッフ・特別審査員を務めていますが、全国から短編映画が100作品以上集まり盛り上がっています。

短編映画の魅力は一度に多くのジャンルを楽しめること。毎年9月に開催される映画祭では、お気に入りの作品に出会えると思います。

●松本さんの作品は？

短編映画「公衆電話」（2018年）は、映画祭で知り合った人たちに協力してもらいながら制作した作品で、立川駅南口の諏訪通り商店街をメインに諏訪の森公園や居酒屋などで撮影し、今では懐かしい「ひがしミート」も切り取り、変わりゆく街の風景を残しています。これも映画の役割の一つです。

国内外の映画祭で多数受賞し、続編「カセットテープ」に続き、来年には第三弾も計画中。制作者側になると、街の魅力を再発見してもっと好きになるので、市民の方が立川を舞台にした映像作りに参加できる企画があるといいなと思います。

●長編映画「星に語りて～Starry Sky～」は東日本大震災での障害者を描いてますね

障害者支援団体「きょうされん」の40周年を記念した、震災での障害者の知られざる実情を描いた映画です。実話をもとにした作品なので、当事者に寄り添った脚本作りには注力しました。舞台挨拶では「一人でも多くの人に観てもらいたい、というより、観なくてはいけない」と話しています。

今は健康でも高齢になれば、誰しも体が不自由になり障害のある人と変わらなくなる。この映画は過去の震災を描いていますが、すべての人にやがて訪れる未来のありさまをも描いています。

●女性をテーマにした新作映画も公開になるそうですね

女優の水村美咲さんからオファーを受けて監督した短編映画「在りのままで咲け」と長編映画「在りのままで進め」が12月から劇場公開されます。水村さんが結婚や出産で夢をあきらめる仲間の姿を見て「女性でも年齢に関係なく夢は叶えられる」というメッセージを込めて、自身の30歳の節目に制作した作品です。異なる境遇の女性3人の描写を、脚本家と私（監督）を交えて何度もディスカッションして作り上げました。

女性3人の輝く姿を見た観客の方が、性別にかかわらず自分も挑戦してみようと思ってくれたら成功です。地元である立川の映画館で上映してもらえたらうれしいですね（笑）。

●立川市について期待することや、市民の方にメッセージを

この仕事をしていると、撮影の日は渋谷や新宿が起点・終点になることが多く、立川に帰ってくるのは終電間際。「不便だろ、都心に引っ越せば」と言われますが、買い物や交通の便がよく、静かなところもある立川が好きで、ずっと住んでいます。立川をもっと魅力ある街にしていくために、みなさんと一緒になって協力していけたら嬉しいですね。

審議会等に参加して女性の意見を市政に

「審議会等」とは、市民や専門家の意見を施策に反映させるための機関です。

誰にとっても住みやすい市にするため、さまざまな分野の公募委員に応募し、女性の声を市政に届けましょう。

男女平等参画苦情処理制度をご存じですか

立川市男女平等参画基本条例では、市の施策が男女平等参画の促進に影響を及ぼす場合等に、男女平等参画苦情処理委員に苦情の申し出をすることができます。申出書の提出方法等は男女平等参画課にお問い合わせください。

生理用品を配布しています

市では、物価高騰の影響等を踏まえた女性支援として、生理用品をお配りしています。

「情報紙アイム」へのご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマなどお寄せください。

e danjobyoudou@city.tachikawa.lg.jp

バックナンバーは、立川市ホームページから「情報紙アイム」で検索してください。

アイム企画・編集

市民編集委員： 蜂須賀裕子（助言者）、瓦田尚、杉浦早苗、永井靖二、萩本悦久、長谷山聡子

イラスト協力： 矢島友美

令和５年度立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所を認定しました

株式会社ヤマヲ

取り組みの主なポイント

- 自社開設日本語学校による言葉の支援等、多文化共生企業としてDiversity＆Inclusionを実践。
- 女性も働きやすい環境として、えるぼし・三ツ星認定取得と健康企業宣言。

大和自動車交通立川株式会社

取り組みの主なポイント

- 子育てや家事に合わせて選択できる勤務シフトの採用。
- 社内クラブ活動を通した交流制度の導入。

学校法人みんなのひろば ふじようちえん

取り組みの主なポイント

- 従業員の夢を叶える応援、結婚しても、出産しても、育児中でも、心おきなく働ける環境づくり。
- Work Life Balance & Children's Glow

株式会社アイエムデータ

取り組みの主なポイント

- 子育てと仕事を両立できる働きやすい環境づくりのため、育児支援制度を導入。
- 仕事中にリフレッシュするため、フリードリンク制度を導入。

市では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組む市内の事業所の認定を行っています。

認定事業所の取り組みがわかる「立川市ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定式」＆パネルディスカッションを令和６年２月１日㈭午後２時から開催します!!

詳しくは広報たちかわ（12月25日号掲載予定）、または立川市ホームページで